

審判研修会参加報告

| | |
|---------|---|
| 報告者(所属) | 山下 渉 (U18) |
| 期日 | 2019年 9月14日(土) ~ 15日(日) |
| 大会名 | 関西学生バスケットボールリーグ戦 |
| 会場 | 家原大池体育館, 佛教大学 |
| 講師 | |
| 内容・感想 | <p>9/14 (土) 担当ゲーム 大阪大谷大学(78) - 大阪市立大学(69) CC 山下(報告者) U1 武井(鳥取)</p> <p>PGO より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2PO であるために ActiveTrail を心がけるとともに, Lead も Active に判定に加わっていくことを確認した。 ・ゲーム中はアイコンタクトをとり, テンポセッティングをしっかりとっていくこと。 ・T.O との連携をしっかりとし, タイマー, ショットクロックの表示適切であるかを Trail だけではなく, Lead も確認する。 ・NewRule の確認, ショットクロックの 14 秒, 24 秒になるケースの確認をした。 <p>ミーティングより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポセッティングは2人で協力してゲームの序盤に基準を示せた。 ・ベンチとの適切なコミュニケーションを取り合うことができた。 ・オフボールのプレーの部分にもう少し意識を向けておく必要があった。オフボールでのイリーガルなプレーを見逃さないようにする必要がある。 <p>9/15 (日) 担当ゲーム 阪南大学(95) - 追手門学院大学(67) CC 南(滋賀) U1 山下(報告者)</p> <p>PGC より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックを大切に, アイコンタクトを取りながらテンポセッティングをしっかりとっていく。 ・オールコートでプレスの場合に二人では見えないところもあることを認識しておく。 ・明らかなものをコツコツと取りあげる。 <p>ミーティングより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のプライマリーでブロック or チャージのところで決着をつけないといけない場面があった。 ・Lead の位置どりを工夫した方が良いと感じた。もう少し開いた方が良いケースなど。 ・プレーヤーとのコミュニケーションも適切に行うことができた。 <p>感想</p> <p>今回, 2PO で笛を吹かせて頂いた。最近3PO での活動が増えてきているため, 判定力というところで今回の県外派遣は非常に勉強になった。2PO ではあったが, 3PO でも活かせる内容があったと思う。今後の活動の課題として, 自分のプライマリーの意識をしっかりと持つこと。判定を下さないといけないところでは必ず決着をつけること。プレーヤーやコーチと適切なコミュニケーションの取ること。これらを今後の課題とし, コート上での CC メンタリティーを強く意識していきたいと思う。</p> |

| | |
|---------|---|
| 報告者(所属) | 石川 賢司 (U18) |
| 期日 | 2019年9月14日(土) 9月15日(日) |
| 大会名 | 2019年度関西学生バスケットボール リーグ戦 |
| 会場 | 家原大池公園体育館 佛教大学 |
| 講師 | |
| 内容・感想 | <p>9月14日(土)</p> <p>担当ゲーム 男子3部 神戸学院大学 対 追手門学院大学 CC:石川(徳島) U1:梅木(愛媛)</p> <p>プレゲームカンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2POのメカの確認。 ・選手・ベンチとのコミュニケーションを適度にとりながらゲームを進めていく。 ・ピリオドの終わり・ゲームの終わりで基準を変えない。 ・TOの管理。必要に応じてコミュニケーションを取ること <p>オンザコートにおいて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つ丁寧に同じ現象に対して、同じように笛を入れることを心掛けた。 ・タイマーやショットクロック管理は1試合を通してできた。 ・ボーナススローになったケースでシューターがメンバーチェンジでベンチに戻りかけたが、誰がシューターか把握できていたので、声かけをし、スムーズに進行することができた。 <p>ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの戦略や選手の特徴、反応など様々な情報を集める事も重要。 ・相手レフリーが笛をいれたものを頭に残して、次の自分の判定につなげる。 ・リードの動き方に工夫が必要である。プレイに近すぎるケースがある。 <p>9月15日(日)</p> <p>担当ゲーム 男子3部 京都教育大学 対 京都大学 CC:廣瀬(大阪) U1:石川(徳島)</p> <p>プレゲームカンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2POのメカの確認。 ・チームや選手の特徴について話をした。 ・ゲーム中はアイコンタクトをしっかりとりながら進めていく。 |

| | |
|--|--|
| | <p>ミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都大学の体の寄せ方に対してもっと笛を入れるべきだった。 ・後半途中から、判定にブレが生じたので、原因を追及する必要あり。 ・もっと声を使うなどして、選手とコミュニケーションをとる。 <ul style="list-style-type: none"> － 選手に必要なのないファールをさせないなどの工夫が必要である － <p>感想</p> <p>2日間にわたって審判をさせて頂き、自分の力不足を痛感するとともに、自身の課題解決に向けてさらに努力が必要であると強く感じた。笛を入れるべき現象に対して判定することができず、相手レフリーに吹いてもらったものに関してしっかりと頭に残し、次のゲームで同じ現象が起こった場合には判定できるようにしたい。</p> <p>また、最近3POに関して新たな情報が次々とおりにてきているので、しっかり理解するとともに実践できるよう、継続して努力を積み重ねていきたいと思う。</p> <p>今回の研修にあたり、関西学生・徳島県バスケットボール協会の方々への感謝の気持ちを込めて報告とさせていただきます。</p> |
|--|--|

| | |
|------------|--|
| 報告者(所属) | 川人 理恵 (社会人連盟) |
| 期日 | 2019年 9月14日(土)・15日(日)・28日(土)・29日(日) 10月13日(日)・14日(祝) |
| 大会名 | 関西女子学生バスケットボールリーグ戦 |
| 会場 | 関西学院大学・関西大学・関西外国語大学・奈良学園大学・武庫川女子大学 |
| 内容 9/14 | <p>12:40～ 立命館大学－武庫川女子大学(女子1部) (CC:鈴木(奈良) U1:川人 U2:小松(兵庫))</p> <p>PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3PO メカニクスのベーシックの確認 (ローテーションのタイミング・OOBの協力・フルコートのケース等) ・タイマーが中央のみのため、EOQ/EOGは全てオポジットサイドが担当する ・チームや選手の特徴の情報共有(ガード陣の手の整理・インサイドのマッチアップ) <p>MTG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的なローテーションが終始できたが、行かなくても良い場面やバックペダルで戻れる場面もあったため、チームや選手の特徴を捉えて判断することができれば良かった。 ・インサイドの攻防(特にオフボール)に対して、整理する必要があるがあった。 |

| | |
|-------------|--|
| <p>9/15</p> | <p>13:00～ 京都先端科学大学－大阪大谷大学（女子2部） (CC:花谷（大阪）U1:川人）</p> <p>PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会の競技注意事項についての確認 ・2PO メカニクスの確認 （エリア3のプレイの見方（視野の分担）・Lのスイッチサイドするケース等） <p>MTG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1Qにテンポセッティングすることができ、落ち着いたゲーム内容だった。 ・PGCで確認した視野の分担を実際に行うことができ、お互いのポジションを意識しながら協力して進めることができた。 ・オフボールのコンタクト（カッティング時のバンプ等）の整理する必要があるあった。 ・ジャンプショットに対する体の寄せ方に対して、ポジションアジャストし良いアングルを取る工夫が必要な場面があった。 |
| <p>9/28</p> | <p>12:40～ びわこ成蹊スポーツ大学－京都先端科学大学（女子2部） (CC:川人 U1:木村（大阪））</p> <p>PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2PO メカニクスの確認 （エリア3の見方・Tのポジションアジャストの仕方・Lのスイッチサイドするケース等） <p>MTG（湯浅氏（大阪））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レフェリーディフェンスの意識をもっと持つこと。 コンタクトに対しての見方が変わってくる。 ・びわこのイリーガルなディフェンスに対して、もっとメッセージを送らないといけない。 いくつかは取り上げられているが、選手に十分伝わっていない。吹き続けること。 ・リードでの身体の向き、視野の当て方を工夫すること。 |
| <p>9/29</p> | <p>12:40～ 立命館大学－園田学園女子大学（女子1部） (CC:清瀬（大阪）U1:佐原（静岡）U2:川人）</p> <p>PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフボールがアクティブかノーアクティブによって視野の厚さを変える。 |

| | |
|--------------|--|
| <p>10/13</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 3PO メカニクスの確認 ローテーションのタイミング チェックイン・チェックアウトの引き渡し方 EOQ/EOG は全てオポジットが担当する (タイマーがテーブルサイドのみ) ・ チームや選手の情報共有 (ドライブに対するコンタクト・インサイドのマッチアップ) <p>MTG (鈴木氏 (奈良)・村田氏 (大阪))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ローテーションが重たかった。C が苦しい時間帯があった。 ・ 24秒ヴァイオレーション Good! その時の見せ方。プレゼンの工夫。 ・ チェックイン チェックアウト、視野の分担をクルーとして修正する必要がある。 1つのプレイを2人で捉えている場面が多かった。 ・ プレイヤー同士の距離がすごく近い印象。ゲームの入りで整理する場面があったのでは。 <p>12:40～ 立命館大学-天理大学 (女子1部)</p> <p>(CC:村田 (大阪) U1:東田 (滋賀) U2:川人)</p> <p>PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェックイン チェックアウトの意識 ・ アクティブなマッチアップの把握 ・ POC を明確にする ・ デリバリースキル (周囲に分かりやすく伝える) ・ レフリーディフェンス (そのためのポジションアジャスト) ・ チームや選手の情報共有 (勝敗や順位・それぞれのキープレイヤー等) |
| <p>10/14</p> | <p>MTG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ローテーションのタイミング等、ゲーム中に修正しながらスムーズに行えた。 ・ レフリー同士のコミュニケーション不足によって、処置のミスが起きた。コミュニケーションが必要な場面で自分の持っている情報を発信したり、CCMを持って対応したりできれば防ぐことができた。 ・ ゲームの中で色々と感じることができているので、自信を持ってもっと自分を出すこと。 <p>11:00～ 園田女子大学-天理大学 (女子1部)</p> <p>(CC:塚本 (兵庫) U1:清瀬 (大阪) U2:川人)</p> <p>PGC</p> |

| | |
|----|---|
| 感想 | <ul style="list-style-type: none"> ・プレーコーリング ガイドライン ・3 PO メカニクスの確認 ・チームや選手の特徴（注意すべきプレイヤーの共通理解） <p>MTG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リバウンドでのコンタクトの整理 （飛び込みリバウンドや内側にポジションを占めている選手の身体の使い方など） ・ボールマンに対するヘルプディフェンスの見極め （ボールに対して正當にプレイしているのかどうか） ・ファウル、ノーファウル、マージナルについての理解と整理 <p>今回、関西女子学生リーグ戦に6日間参加させて頂きました。他県の女性審判員また上級の方々と関わる中で、多くのことを感じ学びました。今回担当したゲームでは、レフェリーディフェンスの意識の大切さ、クルーとのコミュニケーション（クルーワーク）やCCMの重要性を強く感じました。また、初めて一緒にゲームを担当する方がほとんどの中、PGCの大切さを再確認しました。ゲーム後のミーティングでも、様々なアドバイスを頂きました。常に学び続ける姿勢や情報を得る努力を今後も継続させ、自身のスキルアップに努めたいと思います。また、新たなで出合いやつながりができたことを今後の審判活動に活かし、県内の女性審判員の活性化につなげていきたいと思っています。</p> <p>最後になりましたが、関西女子学生バスケットボール連盟、徳島県バスケットボール連盟の方々に感謝の気持ちを込めて、報告とさせていただきます。</p> |
|----|---|

| | |
|--------------|--|
| 報告者（所属） | 古川 聖翔（U15） |
| 期日 | 2019年9月28日（土）、29日（日） |
| 大会名 | 関西女子学生バスケットボールリーグ |
| 会場 | 関西外国語大学 片鋒体育館 |
| 日程・内容 ・感想 | <p>○実技 9月28日（土） 神戸親和女子大学 v s 大阪産業大学 CC：古川 U1：太田氏（大阪）</p> <p>プレカンでは、コートの特徴、両チームの特徴、基本的な2 PO のメカニクスについて確認をした。チームの特徴を情報として共有し、そこにポイントを当てクルー間で協力していこうと話を進めた。両チームともに大きな選手がいるので、インサイドの見方としてリードのスイッチサイドのタイミングを重点的に確認した。また、3番エリアに関してはTが責任を持って判定する意識をもつこと、リードもカバーする準備</p> |

をしておくことなど、2 PO で判定しにくいケースを想定し、話し合った。また、機材についても確認し、ゲームクロックが5秒以下において1/10秒表示されないものだったので、ショットクロックとも関連付けてタイマーや TO の管理をし、処置ミスゼロを目指してゲームを運営していこうと共有した。

試合を終えての反省・感想は、県内で普段取り組んでいるよりもゲームレベルが高くプレーを捉えきれなかったこと、なおかつ2 PO の感覚を思い出すのに時間がかかった。逆に言えば、普段3 PO の活動が増えていたので、2 PO の弱点、3 PO の良さ（とくに C）を改めて感じられたことはよかった。大阪府 IR の湯浅氏が来てくださっていて、ポストカンファレンス、ミーティングを行ってくれた。フェイクに対しての見方を見極め（安全に着地をしようとシューターが受身としてこけるのか、フェイクなのか）をする必要があること、フェイクを取り上げた際には、監督とその選手に両レフリーからそれぞれ警告を入れることなど、そのあとの処置の仕方まで丁寧にアドバイスしてくださった。「やろうとしていることは間違っていない」と最後に温かい言葉をかけてくださり、大変励みになった。

9月29日（日）

関西外国語大学 v s びわこ成蹊スポーツ大学

CC：宮城氏（大阪） U1：古川

CC 中心にプレカンを行った。前日の反省、コート状況など知っている情報を共有して話を進めた。早い段階でテンポセッティングをすること、ベンチの管理、3番エリアに対しての見方など、基本的なことを確認した。

ゲームの反省としては、ゲーム内容は得点差のあるゲームではあったが、最後までファウルが多いゲーム（特にショットのところ）で、最後まで粘り強く判定をすることができなかった。フィジカルのある選手の触れ合いのリーガル・イリーガル・マージナルの見極めができず、笛を置いてしまったケースが多かった。CC は A 級の方であったが、同じ基準で判定し続ける姿に、私も積極的にレフリーする必要があると反省している。常に CCM を持って、オンザコートに立たないといけないと感じた。また、4 Q でオフェンスファウルを取り上げたが、笛を挟むのが遅れてしまい、チームのタイミングでチームが不満を感じる原因を作ってしまった。ジャストで判定する、遅らせて判定する、笛の吹き方など、一つの判定にも見せ方を工夫する必要があると感じた。プレイヤー、ベンチが納得するポジション、強さ、判定力を身につけていく必要があると感じた。

二日間、レベルの高いゲームに触れ、判定力やプレーの見極めなど、いろいろな方向から学ぶことができた。また、県外の審判員の方との繋がりも増え、これからの活動の励みにもなった。仕事や私生活との兼ね合いもあるが、出来るだけ様々なゲーム

| | |
|--|---|
| | <p>に出会い、経験を積み重ねることができるように、行動していきたい。</p> <p>最後になりましたが、今回関西リーグに参加するにあたり、丁寧に連絡をくださり、審判活動しやすい環境を作ってくださった学連の皆様をはじめ、参加チームの監督・選手、関係者の皆様に感謝の気持ちを込めて、報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p> |
|--|---|

| | |
|---------|---|
| 報告者(所属) | 黒木 友貴(社会人) |
| 期日 | 2019年10月13, 14日 |
| 大会名 | 関西学生バスケットボールリーグ戦 |
| 会場 | 大阪商業大学, 近畿大学記念会館別館 |
| 講師 | |
| 内容・感想 | <p>13日</p> <p>関西外国語大学 VS 大阪市立大学 CC 奥田(滋賀) U 黒木</p> <p>1~3Qまではクルーでのゲームコントロールがうまくいっていた。オブヴィアスな現象のみに笛を吹いていくことで、選手同士の正当な競り合いが生まれていた。その中でイリーガルな行為に対して淡々と笛を入れていくことで、クリーンなゲームになっていたと思う。しかし、4Qになると、ゲーム展開がガラッと変わり、その展開に追いつくことができずに、不穏な空気でゲームが終わってしまった。事前にこうなることをしっかりと予想して準備をしていれば、もっとすっきりとしたゲームになると思った。</p> <p>阪南大学 VS 京都大学 CC 山形(奈良) U 黒木</p> <p>全試合の反省もあり、最初から最後まで大きく荒れることなくゲームを進めることができた。その中で、積極的に笛を入れることができた。また、タイマーの管理等もTOと連携していくことで、大きなミスもなく終えることができたと思う。ただ、ジャストコールで笛を入れるべき部分でも、レイトコールになってしまっていた。状況を整理して、現象を最後まで観察することも必要と思うが、明らかなものに対しては、ジャストコールする必要があると思うようなゲームであった。</p> <p>14日</p> <p>電気通信大学 VS 桃山学院大学</p> <p>今季最後のゲームで、順位の変動もないような試合だったため、終始選手のモチベーションが下がっていた試合だった。そのようなゲームの方が、怪我人を出してしまう可能性が高い。そのため、1Qのテンポセッティングが重要になっていく。1Qで</p> |

は、チームファウル数が多いような状態だったが、2Q, 3Q, 4Qでは少なくなったのでテンポセッティングがうまくいったと思う。4Qの前にクルー間で、点差もない状態なので荒れるかもしれないと共有したが、特にそれまでのゲームの進行と変化はなかった。PGCも同じことだが、クルー間での共通理解、意見の交換は、ゲームをコントロールしていくうえで重要なことだと思う。